

戦争は高齢者、障がい者、子どもの敵です！

今年の連休は3年ぶりに蔓延防止措置なしで、行楽地はにぎわっています。皆さまいかがおすごでしょうか。

暮らしネット・えんでは、毎週実施してきた全員対象のPCR検査で、3月半ばにデイホームえん職員の陽性が発覚、濃厚接触者は「なし」でしたが大事をとって3日間休止。4月に入ると訪問介護ヘルパーが陽性、利用者さん1名が濃厚接触者に認定されました。心配な方全員にPCR検査を行った結果全員陰性。2名とも花粉症のような軽症で、定期検査がなければ感染を広げたかもしれません。おかげさまで、クラスター感染は今のところ発生しておりません。ご迷惑をおかけいたしました方々に心からお詫び申し上げます。

2月24日、ウクライナにプーチンのロシアが攻め込みました。寝たきりや歩行のおぼつかない高齢者が逃げていく映像や、チェルノブイリ原発を占領し放射能汚染された土で多数の兵士が被ばくしたというニュースが伝えられてきました。

すると日本でも「敵基地攻撃能力」だの、「核兵器をもたないとやられる」だのと声高に語られるようになり、防衛費を2倍にしたいと言い出しました。6兆円から12兆円です。2020年度の介護保険は総額10.8兆円ですが、介護保険の半分は私たちが支払う保険料で、国の持ち分は約3兆円。介護職員の賃金を上げるために税金をもう少し投入できないかといっても、いい返事は聞かれません。兵器を買うお金になるとあっさり倍額が示されます。

考えてみてください。高齢化率は30%を超え、認知症有病者は最大1千万人になるという国が戦争に巻き込まれたらどうなるのでしょうか。戦争で犠牲になるのは兵士だけではなく。今日もウクライナでは逃げられない子どもや高齢者、障がいがある人々が犠牲になっています。

すぐさま片付くつもりが泥沼にはまっていくロシアの姿は、日中戦争時の日本にそっくりだといいます。私たち戦後生まれは、先の大戦で生き伸びた父母の子孫、父母

から聞いた悲惨な戦争体験を語り継ぎ、戦争反対の意思を伝えていく義務があります。ロシアが使用をほのめかす実用的な「小さい核兵器」は、広島に落とされた原爆の数分の一とか。小さかろうと一生後遺症の危険にさらされるのが核兵器。介護・福祉は戦争で最も被害を大きく受ける人々を支える仕事です。「戦争は政治の失敗」です。戦争反対を強く強く訴えましょう。



イラスト／細井美風

(代表理事／小島美里)